

SCHOOL DATA

〒289-1326 山武市成東3596  
TEL 0475-82-3171 FAX 0475-82-0144  
■生徒数/972人 ■教職員数/69人 ■周辺環境/住宅地 (平成21年5月1日現在)



【近隣児童のおオムラサキ観察会】



【オオムラサキの成虫】

ビオトープの概要

- 場所/学校敷地内
- 面積/980㎡
- 設置者/学校
- 設置した年/1999年
- 直近の改修年/2005年
- 主な管理者/理科(生物)職員・生物部生徒

【生息している動物】

マゴイ、メダカ、ドジョウ、ニホンアカガエル、ニホンアマガエル、オオムラサキ

【生育している植物】

エノキ(オオムラサキ飼育用)、タブノキ、ツバキ、クスノキ、ヤマモモ、スタジイ、ホトトギス、エビネ

【今後生息・生育させたい生物】

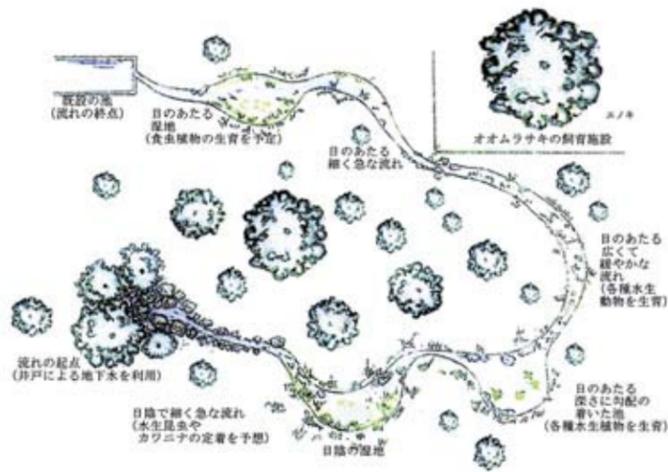
地元作田川水系の動植物、山武市固有の黒メダカ、フナ類、ドジョウ、モツゴ、タニシ、イモリ、トウキョウサンショウウオ、ヘイケボタル、モウセンゴケ、コモウセンゴケ、イシモチソウ、ナガバノイシモチソウ、ミミカキグサ、オモダカ、ヒシ、トチカガミ、セキショウモ、クロモ、マツモ等絶滅危惧種に該当する動植物・食虫植物

【コンセプト】

本校には10年前に設置されたビオトープがあるが、面積や規模は非常に小さく完成度の低いものである。また経年の劣化により、ほとんど活用されていない状態にある。一方、千葉県東部の豊かな自然の中で育った本校生徒の環境に対する意識は高く、環境関係の進路を目指す生徒も少なくない。

今回の改修によって、このような生徒の理科教育・環境教育の場、加えて地域交流の場として充実したものとした。

また、将来、地球規模の自然環境を保全する研究に携わったり、千葉県の将来の緑化事業の研究者・緑化関連企業の後継者になるなど、地域に貢献できる優秀な人材を長期的に育成していきたいと考えている。



【ビオトープを流れる小川の風景】



【コモウセンゴケ】

ビオトープの活用方法

- 生徒
  - 理科(生物、その他の科目)の授業で活用する。
  - ・生態系や環境保護の重要性の実例となる。
  - ・その他、生物の各実験における生物試料の供給源となる。
  - 部活動(生物部等)における、観察や研究の場となる。
- 地域住民
  - 地域交流の場となる。
  - ・保護者や地域の方々対象の行事(観察会、研究会等)に貢献できる。
  - ・近隣の小中学校等の理科や総合的な学習の時間等で活用できる。
- その他
  - 希少動植物を保護する場となる。
  - ・千葉県北東部平野部の原環境である湿地を構成する植物のうち特に食虫植物の保護に資する。(モウセンゴケ、コモウセンゴケ、イシモチソウなど)
  - ・水生昆虫(ヘイケボタル)や魚類(メダカ、フナ、ドジョウなど)の生息地となる。

ビオトープの効果

- 生徒への効果
  - ・生物や環境についての授業で活用することにより、動植物とその暮らしについての理解が深まる。
  - ・食虫植物や絶滅危惧種となっている植物の保存に努めることで、種の維持に対する関心を高める。
  - ・生き物にふれることで、豊かな心が育ち、生命尊重の意識が育つ。
- 教職員への効果
  - ・教科の学習や生物部の活動の場として、効果的に活用することができる。
- 保護者・地域住民への効果
  - ・文化祭などの学校開放行事の際に保護者、近隣住民向けの観察会を開催することで、地域の人々が自然に親しむ機会が増えるとともに、学校への理解が深まる
- その他、期待される効果
  - ・絶滅危惧種を身近に見ることによって、自然への関心が深まる。
  - ・ビオトープを研究する機関・大学・企業等に研究の場として提供できる。

保護者、地域との連携

- 保護者
  - ・シンポジウムを開催した。(PTAの研修会を利用して)
- 自治会、町会
  - ・地域住民を対象とした観察会等を計画し実施した。
  - ・オオムラサキの観察会(7月)・文化祭の中で公開した。
- NPO
  - ・「成東・東金食虫植物群落を守る会」との連携をはかる。
  - ・絶滅危惧種や食虫植物についての指導助言をうける。
  - ・環境保全についての情報交換をする。
- その他
  - ・地域の小中学生の学習の場として活用する。(生活科や理科、総合的な学習の時間)
  - ・改修にあたっては、千葉県造園緑化工事業協会の多大な協力を得ている。

整備・活用・管理等の課題

- ・このビオトープについて地域や保護者への周知に努め、多くの方々との連携を含めた、管理維持体制を整備していきたい。
- ・ビオトープの管理維持には、そのための費用や中心となる指導者等、予算・人事面での配慮が大切になってくる。

今後の展望

- ・生物の授業や生物部の活動を活性化させ、生徒たちが主体的にこの施設を活用していくことで、将来自然保護等の分野で活躍できる人材を育成していく場としたい。
- ・このビオトープが地域に開かれた施設となるよう、様々な企画を展開していきたい。



【ビオトープ改修場所(中庭部分)】